

Book Reviews [自著紹介]



大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
薬品分子分析化学分野

田中 秀治 たなか ひでじ

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
製剤設計科学分野

嶋林 三郎 しまばやし さぶろう

『わかりやすい分析化学問題集』

出版社: 廣川書店
定価: 本体2,400円+税
発刊日: 2003年9月1日

本書はこれから分析化学を学ぶこととする学部学生向きに、その理解を助け、深い考察力を身につけさせるよう企画されたものです。計4編、11章で構成されており、薬学関係の9名が分担執筆しました。田中と嶋林は全編の編集を担当するとともに、「分析データの取り扱い」、「沈殿生成平衡」、「物質の分離と濃縮」の各章を共著しています。

内容的には溶液内化学反応とこれに基づく分析法(特に容量分析法)が中心で、さらにはクロマトグラフィや電気泳動法などの分離分析、免疫学的分析などの生体関連分析の章が加わっています。各章とも基本事項の系統的な解説、例題とその詳解、章末の練習問題からなっており、教科書と問題集の両方の性格を併せ持っています。練習問題は量よりも質を重視しており、無用に難易度を増やすよりも、内容および難易度ともバリエーションに富むよう努めています。国内の分析化学書にしばしば見受けられる物理量や単位の取り扱いのあいまいさを排除し、記述の厳密さを追求しています。

主に薬学教育における活用を想定し、薬剤師国家試験出題基準、薬学教育モデルコアカリキュラム、および現行の第14改正日本薬局方に準拠しています。しかし、薬学生が陥りがちな(知識の羅列に基づく)暗記中心の学習ではなく、論理的な思考能力を身につける学習ができるよう配慮してありますので、理工系いずれの領域の学生のお役にも立てる分析化学書であるかと思えます。



大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部
生体栄養学分野

岸 恭一 かし きょういち

『アミノ酸セミナー』

出版社: 工業調査会
価格: 2,200円
発刊日: 2003年11月25日

自著紹介の欄に、執筆せず編集だけの本を紹介するのは気が引けますが、単なるBOOK REVIEWというところでご勘弁願います。

アミノ酸は調味料として一般に普及しているだけでなく、飼料、医療、化粧品、その他に広範囲に利用されてきました。それが昨今、サプリメントやアミノ酸飲料として市販され、アミノ酸ダイエット、アミノ酸で美肌を保ち、集中力をアップし、筋肉をつけるなどと喧伝され、健康雑誌に取り上げられて一種のブームになっています。

ところがアミノ酸に関する適当な参考書がありませんでした。そこで、一般の人だけではなく、アミノ酸栄養を専門としない研究者にも興味をもっていただける本として企画しました。6章からなり、1章「栄養とアミノ酸」、2章「生命とアミノ酸」、3章「皮膚とアミノ酸」、4章「スポーツとアミノ酸」、5章「病態とアミノ酸」、6章「小児栄養とアミノ酸」というように、勿論一部にすぎませんが一応アミノ酸栄養の基本から、アミノ酸の臨床応用までカバーしています。とくに2章は、アミノ酸の栄養的側面を進化の観点から考察し、またヒトの食性、食文化の成立にも言及した興味深い小論です。

本書はA5版の178頁の小冊子であり、アミノ酸科学の一部しか取り上げられていませんが、引き続きシリーズとしてアミノ酸関係の本を出版する予定で、現在2冊目の執筆が進行中です。本シリーズを通して、アミノ酸に興味を持つ人が少しでも増すことを願っています。